

# 土井ヶ浜遺跡出土人骨補遺（1）

綾香奈江・松下孝幸

## はじめに

山口県下関市豊北町大字神田上に所在する土井ヶ浜遺跡は、1953（昭和28）年から1957（昭和32）年までの5次にわたって発掘調査がおこなわれ、大量の弥生人骨が副葬品を伴って出土した。その後、史跡整備に伴う遺跡の確認調査や学術調査が、1980（昭和55）年の第6次調査から2000（平成12）年の第19次調査までおこなわれた。第6次から第11次までの調査については概報が、第13次から第19次までの調査は報告書が刊行されている。

2014（平成26）年に第1次調査から第12次調査までを主体にした報告書が刊行され、ようやく土井ヶ浜遺跡の全容が明らかになった。この報告書では、人骨については原則的に埋葬人骨についての所見を記載しているが、発掘調査では包含層中から散乱骨も多数検出されている。所属時代が明確ではないものが多いが、土井ヶ浜遺跡の内容を正確に理解するためには、このような散乱骨がどの地点で、どの層から出土したかも記載しておく必要がある。今回は1982（昭和57）年の第7次調査と1983（昭和58）年の第8次調査で検出された散乱骨を記載した。第9次以降の調査で出土した人骨についても順次報告していくことにしている。

## 資料

第7・8次調査地点は、第1～5次調査地点の西側にあたる（図1）。散乱骨は出土地点の層位などが記載されたビニール袋に入れられていた。散乱骨はほとんどが骨片であるが、中には性別などが判別できる程度の大きさの人骨も存在する。

第7次調査で出土した散乱骨は、表1に示すとおり、骨片もカウントすると、少なくとも29体分となり、そのうち11体は第4層から出土している（落ち込み＝溝中の人骨を含む）。第8次調査で出土した散乱骨は18体と推測され、そのうち6体は第4層から

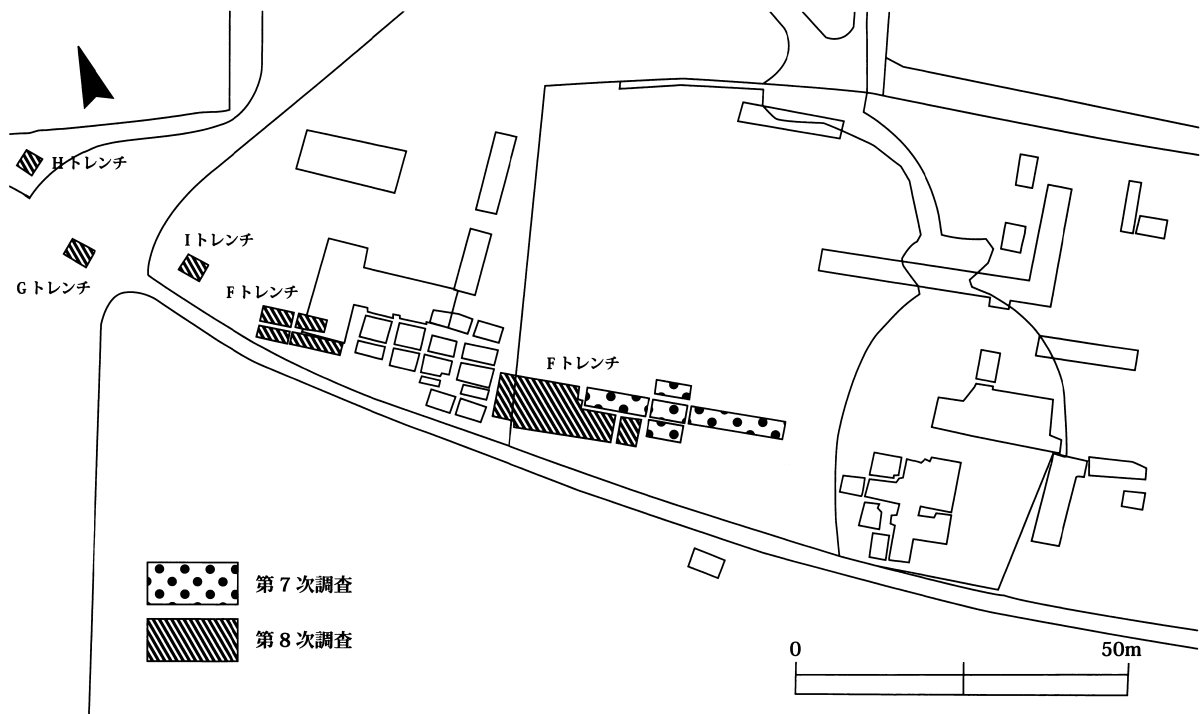


図1. 第7・8次調査区遺構全体図

出土していることから、6体は弥生人骨と思われる。なお、各人骨の層位、骨種、性別などは表2のとおりである。

第7次調査での散乱骨は29体、第8次調査での散乱骨は18体で、両者の合計は47体分となり、そのうち弥生人骨と思われるのは17体であるが、いずれも骨片や部分骨にすぎない。

本稿では、第7・8次調査で出土した散乱骨のうち、観察や計測が可能であったり、性別や年齢が推測できた骨について、所見を記載した。

計測は、Martin-Saller(1957)の計測方法により、松下がおこなった。性別・年齢については、所見の項でそれぞれの骨のその推定根拠を挙げた。なお、年齢区分は表3のとおりである。

表 1-1. 第 7 次調査層別体数

第7次調査						
調査区/土層	成人			未成人	合計	
	男性	女性	不明			
F-1区	表土	—	—	1	—	1
	4層	1	1	—	—	2
	落込み	—	1	2	—	3
	不明	—	—	1	—	1
F-3区	表土	1	—	—	—	1
	表土下半	—	—	1	—	1
	3層	—	—	1	—	1
F-4区	4層	—	—	1	—	1
	黒色層下	—	—	1	—	1
	4層	—	—	1	—	1
F-5区	不明	—	—	1	—	1
	2・3層	—	—	1	—	1
	不明	—	—	1	—	1
F-5・6区	排土	—	—	1	—	1
	2層	—	—	—	1	1
	4層下層	—	1	—	—	1
F-6区	埋土	1	—	—	—	1
	排土	—	—	1	—	1
	3層	—	—	1	—	1
	4層	—	—	1	1	2
	貝製品相当層	—	—	—	1	1
	不明	—	—	—	1	1
不明	表探	—	—	1	—	1
	排土	—	—	1	—	1
	不明	—	—	1	—	1
合計	3	3	19	4	29	

表 1-2. 第 8 次調査層別体数

第8次調査						
調査区/土層	成人			未成人	合計	
	男性	女性	不明			
F-5区	2層	1	—	1	1	3
	4層	—	—	1	—	1
	4-5層	—	—	1	—	1
F-6区	2層	—	—	1	—	1
	4層	—	—	1	—	1
F-6・7	4(b)層	—	—	1	—	1
F-7区	4層	—	—	1	—	1
F-8区	2層	—	—	1	—	1
	2層下半	—	—	1	—	1
	2-4層	—	—	1	—	1
	4層	—	—	—	1	1
F-8・9区	4層	—	—	1	—	1
F-9区	2層	1	—	—	—	1
Gトレンチ	2c層	—	—	1	—	1
Iトレンチ	2層	—	—	1	—	1
不明	不明	—	—	1	—	1
合計		2	0	14	2	18

表 3 年齢区分

年齢区分	年 齢	
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

# 所見

## 1. 第7次調査

旧製材跡地を対象に、幅3m、長さ30mのトレンチを設定して調査は実施された(図2)。

調査区は東から西へ緩やかに傾斜し、層序は大きく1～5層に分かれる(図3)。第1層はa・bに細分され、攪乱層や客土層を含む表土である、第2層はa・bに細分され、厚い中世以降の堆積層と推定される。第3層は部分的に堆積し、須恵器片などを含む。第4層は、弥生時代の土器を含み、トレンチの東側では前期の土器が多く、西側では中期の土器が多い。第5層は無遺物層で、70cm以上の均一な堆積があることから、遺跡の基層を形成するものと考えられる。弥生時代の埋葬遺構は、この第5層上面から検出されている。遺構は、弥生時代の土坑墓13基、土坑1基、溝状落込み1基、室町時代の土坑墓1基である(第7次調査概報1982、第1次～第12調査報告書2014)。

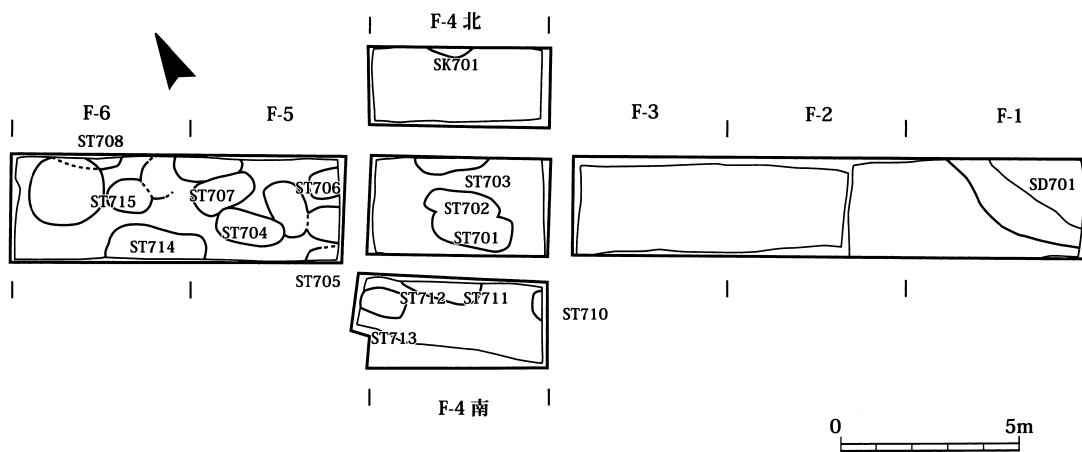
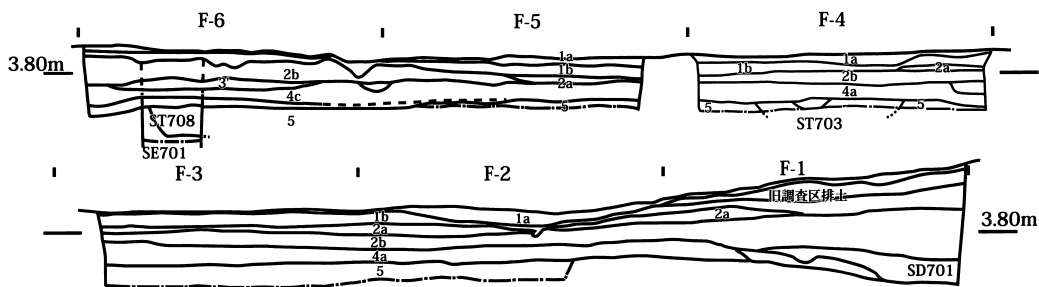
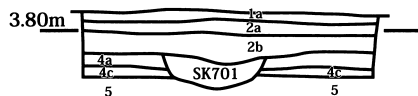


図2. 第7次調査区遺構配置図

F-1～6区北壁土層図



F-4 北区北壁土層図



F-4 南区北壁土層図



- 1a 腐蝕土
- 1b 暗灰褐色砂
- 2a 暗灰黄褐色砂
- 2b 黄白色砂
- 3 濃茶褐色細砂
- 3' 黒褐色細砂
- 4a 茶褐色細砂
- 4b 灰黄褐色砂
- 4c 淡茶褐色細砂
- 5 黄灰色砂

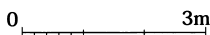


図3. 第7次調査区土層図

## 1) F-1 区

### (1) 表土、層序不明

#### 7-1. 下顎骨 (袋No. 155)

下顎骨は下顎体中央と下顎底の右側部が 6 cm程残存している。歯槽が壊れているため歯槽の観察はできない。性別・年齢は不明だが、成人骨である。

#### 7-2. 上腕骨 (袋No. 154)

上腕骨体は左側が 18 cm程残存しており、前面の長さが 7 cm程欠損しているため三角筋粗面の観察ができない。結節間溝が一部残る。骨体の一部が計測ができ、骨体最小周は 60 mmである。性別・年齢は不明だが成人骨である。

#### 7-3. 肩甲骨 (袋No. 154)

肩甲骨は左側の烏口突起と関節窩が僅かに残存している。性別・年齢は不明であるが、成人骨である。

#### 7-4. 大腿骨 (袋No. 120)

右側の大腿骨体が中央から近位部にかけて 10 cm程残存している。粗線は突出しているが、骨体は細い。骨体の一部が計測できた。骨体中央矢状径は 24 mm、骨体中央横径は 24 mm、骨体中央周は 76 mm、骨体中央断面示数は 100.00 である。骨体が細いことから、成人女性の大腿骨と考えられる。

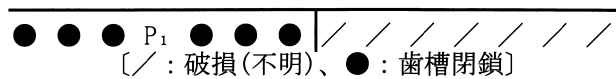
### (2) 第 4 層相当

#### 7-5. 側頭骨 (袋No. 124)

左側の側頭骨が残存していた。鱗部が欠損しているが、岩様部、外耳道、乳様突起が残存している。外耳道の前壁には弱い外耳道骨腫が観察できた。乳様突起が小さいことから成人女性の骨であろう。

#### 7-6. 下顎骨 (袋No. 124)

下顎骨は下顎体の右側部が残存している。歯槽の大部分は欠損しているが、右側の第一小臼歯の歯根が釘植している。下顎体が厚いことから成人男性と考えられる。歯槽の状態は、以下の通りである。



#### 7-7. 肩甲骨 (袋No. 124)

肩甲骨は右側の肩甲棘と関節窩が残存している。肩甲切痕はあるが、烏口突起は欠損している。関節窩が小さいことから、成人女性の肩甲骨の可能性が高い。

#### 7-8. 大腿骨 (袋No. 124)

右側の大腿骨体遠位部が 8 cm程残存する。骨体の一部が計測できた。骨体中央矢状径は 24 mm、骨体中央横径は 27 mm、骨体中央周は 79 mmで、骨体中央断面示数は 88.89 である。骨体が細いことから成人女性の大腿骨と考えられる。

#### 7-9. 膝蓋骨 (袋No. 124)

保存良好の右側膝蓋骨が残存していた。径は大きい。最大高は 46 mm、最大幅は 42 mm、最大厚は 20 mm、関節面高は 35 mm、内関節面幅は 20 mm、外関節面幅は 26 mmで、膝蓋骨高幅示数は 109.52 である。成人男性の膝蓋骨である。骨質が下顎骨と類似しているため、両者は同一個体の可能性が高い。

### (3) 東北コーナー落込み (SD701 溝)

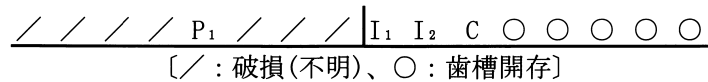
#### 7-10. 前頭骨 (袋No. 130)

前頭骨は左側の眼窩上縁と眉間部分が残存している。眼窩上縁は前頭頬骨縫合から眼窩上孔までが残存する。眉間部分は前頭鼻骨縫合と鼻骨が少し残存している。年齢・性別は不明だが、成人骨である。



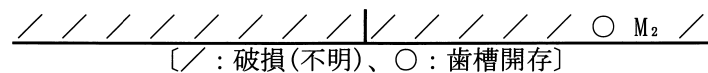
### 7-11-①・7-11-②. 上顎骨 (袋No. 130)

上顎骨は2体分ある。7-11-①は左側の上顎体の一部で、口蓋には横口突起縫合が残存している。歯は釘植しているものと遊離（上顎右側第一小臼歯）しているものがあり、歯と歯槽の状態は以下の通りである。



中切歯は切縁が一部破損しているので不明瞭ではあるが、咬耗は象牙質にまで及んでいる。側切歯の咬耗はエナメル質にとどまる程度である。犬歯は尖頭が咬耗により平らになり、象牙質にまで及んでいる。

7-11-②は左側の上顎骨の歯槽部のごく一部である。第二大臼歯が釘植している。歯と歯槽の状態は以下の通りである。



第二大臼歯は、咬頭が咬耗により平らになり、咬合面も象牙質に及ぶほど咬耗している。歯根は頬側が根尖部まで癒合している。

### 7-12. 歯 (袋No. 119)

右側の上顎側切歯の歯冠と歯根の一部が残存している。歯冠の舌側面には、基底結節の中央から歯根にまで斜切痕が伸びていることが観察できる。性別・年齢は不明だが、成人の歯である。

### 7-13. 椎骨 (袋No. 119)

軸椎の上関節面と下関節面、右側の横突起が残存している。性別・年齢は不明であるが、骨の大きさから成人と考えられる。

### 7-14. 橈骨 (袋No. 130)

両側の橈骨体である。右側は橈骨粗面から橈骨頭が欠損し、骨間縁も一部欠損しているため観察ができない。左側骨体は、骨間縁と回内筋粗面が確認できる。橈骨体が細いことから成人女性の橈骨と考えられる。

## 2) F-3 区

### (1) 表土

#### 7-15. 大腿骨 (袋No. 162)

大腿骨体の近位部が6 cm程残存する。骨壁は厚く、粗線は幅広い。おそらく男性の大腿骨であろう。

### (2) 表土下半

#### 7-16. 下顎骨 (袋No. 160)

下顎底中央が残存している。歯槽は欠損しているため観察はできないが、骨が厚いことから成人の下顎骨と考えられる。

### (3) 第3層

#### 7-17. 肩甲骨 (袋No. 133)

肩甲骨は左側の棘上窩と棘下窩の一部が残存している。性別は不明であるが、成人のものである。

#### 7-18. 脛骨 (袋No. 133)

脛骨体は左側の近位部が6.5 cm程残存し、骨間縁が僅かに残る。海綿質は失われ、骨は薄くて軽い。性別・年齢は不明だが、成人の脛骨である。

### 7-19. 指骨 (袋No. 133)

左側の中足骨の中央から底部が残存している。底部が厚い。性別・年齢は不明であるが、成人骨のものである。

#### (4) 第4層

### 7-20. 脛骨 (袋No. 125)

左側の脛骨体の近位部が7 cm程残存している。前面は欠損し、後面にはヒラメ筋線が確認できる。性別・年齢は不明だが、成人骨である。

### 3) F-4 区

#### (1) 黒色層下 (3層)

### 7-21. 頬骨・上顎骨 (袋No. 118)

右側の上顎骨と頬骨が残存している。口蓋は正中口蓋縫合と横口蓋縫合が確認できた。歯槽の状態は以下に示す通りである。



右側の上顎第一大臼歯の咬耗は、咬頭のエナメル質が擦り減るにとどまっている。また犬歯から第二小臼歯まで歯槽が閉鎖しており、抜歯の有無を確認することはできない。

### 7-22. 側頭骨 (袋No. 118)

側頭骨は鱗部が欠損し、岩様部、乳様突起、外耳道が残存している。外耳道に骨腫は無い。乳様突起はやや突出するが、幅が狭いことから成人女性と考えられる。

### 7-23. 後頭骨 (袋No. 118)

後頭骨は、咽頭結節と後頭顆が残存している。後頭顆はそれほど大きくなく、骨質が7-21、7-22と似ている。同一個体の人骨と思われる。

### 7-24. 肋骨 (袋No. 118)

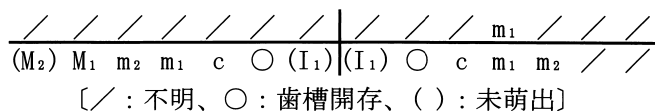
肋骨は7点残存しており、長さが8 cm程度のものが多い。骨質が似ているため1体分の肋骨の可能性が高い。

### 4) F-5・6 区間土手

#### (1) 第2層相当

### 7-25. 下顎骨 (袋No. 127)

下顎体と右側の下顎枝が残存しており、保存状態は良好である。歯槽の状態は以下の通りである。



歯は乳歯と永久歯が混在している。乳歯は尖頭と咬頭が咬耗により擦り減り、部分的に象牙質にまで達している。第一大臼歯は萌出し、中切歯と第二大臼歯は萌出していないが、歯冠は完成して歯根も形成されつつある。永久歯の歯根の形成程度から、5歳前後の幼児の下顎骨と考えられる。

### 7-26. 膝蓋骨 (袋No. 159)

左側の膝蓋骨で、ほぼ完全である。最大高は(38 mm)、最大幅は44 mm、最大厚は20 mm、関節面高は32 mm、内関節面幅は20 mm、外関節面幅は31 mmで、膝蓋骨高幅示数は(86.36)である。骨は厚く

やや大きい。性別・年齢は不明であるが、成人のものである。

## (2) 第4層相当下層

### 7-27. 距骨 (袋No. 149)

右側の距骨の一部で、距骨頭と距骨滑車が残存している。径がかなり小さいことから、成人女性の距骨と考えられる。

## 5) F-6区

### (1) 円形井戸・埋土

#### 7-28. 腓骨 (袋No. 122)

右側の腓骨の近位部が7cm程残存している。径が大きいことから成人男性の腓骨と考えられる。

### (2) 第4層相当 (貝製品出土層相当を含む)

#### 7-29. 脛骨 (袋No. 135)

脛骨の遠位端が残存していた。骨体とまだ癒合していない遠位端であることから未成人の脛骨である。

#### 7-30. 腓骨 (袋No. 147)

腓骨体が13cm程残存している。中央部の骨間縁が欠損しているため観察はできない。骨体は薄くて細く、前縁と後縁は明瞭ではない。女性もしくは未成人の腓骨と考えられる。

#### 7-31. 仙椎 (袋No. 135)

仙椎の一部である。骨は小さい。未成人の仙椎の一部と考えられる。

### (3) 層序不明

#### 7-32. 肋骨 (袋No. 150)

肋骨体の一部が4cm程残存している。骨体は薄く細いことから未成人骨の肋骨と考えられる。

## 2. 第8次調査

第7次の西側に建つ公民館（当時）をはさんだ東西を対象とした。トレンチは第7次調査のF-1区東北隅の東西・南北交点を起点とし、F-6区の西に延長するように、公民館東側にF-7～9区、西側にF-14～16区を設定した。また町道沿いの空閑地にG・H・Iトレンチを設定した（図4）。

調査区は、東側は西から東に緩やかに傾斜し、西側は東から西へさらに北から南へ傾斜している。調査区の東側は第7次調査区に隣接することから、層序はほぼ同一である。第1層は表土、第2層は中世以降の厚い堆積で、第7次調査よりもさらに細分し得る。第3層は須恵器片などを含むが、第8次調査では拵がりをもたない。第4層は弥生時代の層で、前期と中期の土器が混在する。第5層は無遺物層で、遺跡の基層を形成する（図5）。第8次の埋葬人骨は第4層および第5層から検出された。

遺構は弥生時代の土坑墓7基、集骨遺構3基、江戸時代の木棺墓2基である。G・H・Iトレンチからは弥生時代の遺構は検出されていない（第8次調査概報1983、第1～第12調査報告書2014）。

## 1) F-5区

### (1) 第2層

#### 8-1-①・8-1-②・8-1-③. 歯 (袋No. 060)

遊離歯が3点ある。まず8-1-①は左側の上顎第一小臼歯の歯冠である。咬耗が認められないため、未萌出だった可能性が高い。8-1-②は小臼歯の歯冠片である。8-1-③は頸部と歯根の一部が残存

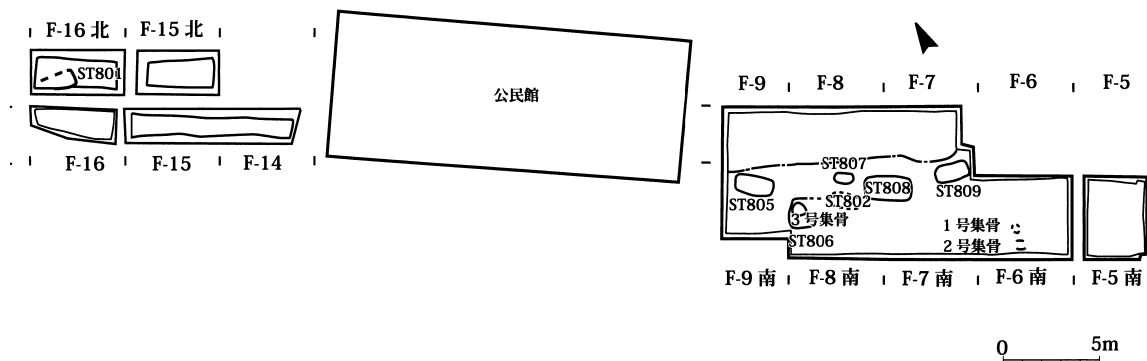


図4. 第8次調査区弥生時代遺構分布図

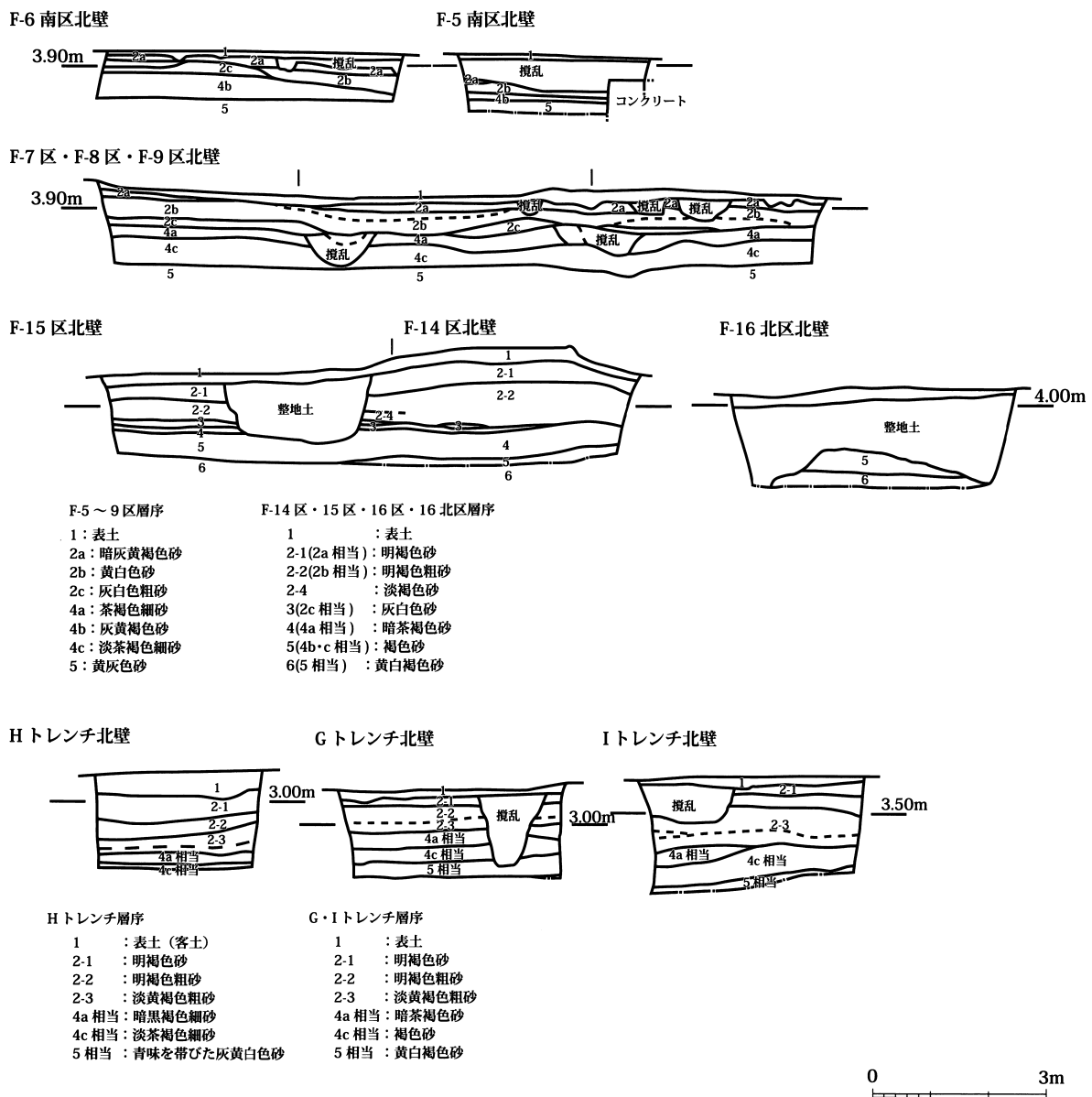


図5. 第8次調査区土層図

しているにすぎないため、歯種の同定はできない。いずれも永久歯である。

## 8-2. 鎖骨

右側の鎖骨は胸骨端から4.5 cm程が残存している。胸骨関節面は欠損しているが、肋鎖靭帯圧痕が僅かに観察できる。性別・年齢は不明だが、成人である。

### 8-3-①・8-3-②. 大腿骨 (袋No. 060)

大腿骨体が2点ある。8-3-①は骨体の中央が6 cm程残存し、粗線は粗く、緻密質はかなり厚い。成人男性の大腿骨である。

8-3-②は骨体の後面が4.5 cm程残存し、粗線がやや突出している。緻密質はあまり厚くない。性別・年齢は不明だが、成人骨である。

## 8-4. 脛骨 (袋No. 060)

左右不明の脛骨体の前縁が8 cm程残存している。前縁はやや鋭く、緻密質は厚い。性別・年齢は不明だが、成人骨である。

## 2) F-6 区

### (1) 第2層

#### 8-5. 腓骨 (袋No. 061)

左側の腓骨体が3 cm程残存している。骨体は扁平である。性別・年齢は不明だが、成人骨である。

## 3) F-8 区

### (1) 第2層

#### 8-6. 大腿骨 (袋No. 065)

大腿骨体の前面が8 cm程残存している。前面は平坦で幅広いことから中央から遠位部が残存していると考えられる。性別・年齢は不明であるが、成人骨である。

#### 8-7. 手根骨 (袋No. 065)

完全な有頭骨である。小菱形骨の関節面に僅かに骨棘が観察でき、また関節面が変形しつつある。骨は比較的大きい。年齢・性別は不明だが、成人骨である。

### (2) 第2層下半

#### 8-8. 大腿骨 (袋No. 024)

大腿骨体が12 cm程残存するが、状態は悪い。骨体側面の一部である。性別・年齢は不明だが、成人骨である。

### (3) 第4層

#### 8-9. 肋骨 (袋No. 044)

肋骨が2 cm程残存している。骨は細くて薄いことから未成人の肋骨と考えられる。

## 4) F-9 区

### (1) 第2層

#### 8-10. 大腿骨 (袋No. 026)

右側の大腿骨体の内側面が8 cm程残存している。粗線は突出しており、緻密質は厚く、径は大きい。成人男性の大腿骨である。

## 5) I トレンチ

### (1) 第2層

#### 8-11. 脛骨(袋Noなし)

脛骨の骨体が6 cm程残存している。前縁はやや鋭く、緻密質は厚く、径も大きそうである。性別・年齢は不明だが、成人骨である。

### まとめ

土井ヶ浜遺跡の第7次・8次発掘調査で出土した散乱骨の整理をおこなった。散乱骨は大部分が骨片であったが、なかには観察や計測ができるものも存在した。散乱骨を解剖学的に精査したところ、第7次調査の散乱骨は29体分であった。29体のうち成人骨は25体(男:3、女:3、性別不明:19)で、4体は未成人骨であった。第8次調査の散乱骨は18体分であるが、18体のうち成人骨は16体(男:2、女:0、性別不明:14)で、2体は未成人骨であった。総数47体の散乱骨のうち弥生人骨と推測される人骨は第7次調査人骨では11体、第8次調査人骨では6体で、合計17体である。

第7次調査で検出された溝状遺構(SD701)の埋土中から、ゴホウラ製貝輪の破片と散乱骨とが検出されている。この溝が埋まる過程で混入したものと思われ、周辺に埋葬人骨が存在したことが予想される。また、弥生時代の埋葬遺構や人骨が検出されなかったF-3区では3層から散乱骨が検出されていることから、この付近に中世以降の埋葬跡があったか、もしくは中世遺構に攪乱があったことが示唆された。

### (謝辞)

本稿作成にあたり、当館学芸員の河田聡氏と大藪由美子氏に、写真撮影・遺構トレースのご協力を得ました。末筆ながら、ここに記して感謝の意を表します。

### 《参考文献》

Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd. 1. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart: 429-597.

日本農耕文化の生成 第二冊 図録編、1960

日本農耕文化の生成 第一冊 本文編: 223-253、1961

史跡 土井ヶ浜遺跡 遺構範囲確認調査(山口県埋蔵文化財調査報告書第62集)、1981

土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告2集)、1982

土井ヶ浜遺跡第8次発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告5集)、1983

土井ヶ浜遺跡第9次発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告6集)、1984

土井ヶ浜遺跡第10次発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告7集)、1985

土井ヶ浜遺跡第11次発掘調査概報(山口県埋蔵文化財調査報告第123集)、1989

土井ヶ浜遺跡第13次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第11集)、1995

土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集)、1996

土井ヶ浜遺跡第15次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第13集)、1997

土井ヶ浜遺跡第16次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第14集)、1998

土井ヶ浜遺跡第17次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第16集)、1999

土井ヶ浜遺跡第18次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第20集)、2001

土井ヶ浜遺跡第19次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第21集)、2002

土井ヶ浜遺跡 第1次調査～第12次調査発掘調査報告書(下関市文化財調査報告書35)、2014

表2. 第7次・8次調査 散乱人骨一覧

第7次調査								
所見番号	袋番号	調査区	層序	部位	左右	年齢	性別	備考
7-1	No.155	F-1	表土	下顎骨	-	-	-	-
-	No.155	F-1	表土	大腿骨片4点	-	-	-	-
-	No.155	F-1	表土	骨片4点	-	-	-	-
7-2	No.154	F-1	表土	上腕骨	左	-	-	-
7-3	No.154	F-1	表土	肩甲骨	左	-	-	-
-	No.148	F-1	4層相当	骨片	-	-	-	-
7-4	No.120	F-1	-	大腿骨(骨体)	右	-	女	図1と表記あり
7-5	No.124	F-1東	4層相当	側頭骨	左	-	女	外耳道骨腫
7-6	No.124	F-1東	4層相当	下顎骨	右	-	男	-
7-7	No.124	F-1東	4層相当	肩甲骨	右	-	女	-
7-8	No.124	F-1東	4層相当	大腿骨(骨体)	右	-	女	-
7-9	No.124	F-1東	4層相当	膝蓋骨	右	-	男	-
-	No.124	F-1東	4層相当	骨片12点	-	-	-	-
-	No.124	F-1東	4層相当	キヌタ骨	-	-	-	-
-	No.124	F-1東	4層相当	アブミ骨	-	-	-	-
7-10	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	前頭骨(上眼窩付近)	-	-	-	SD701
7-11-①	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	上顎骨	左	-	-	SD701
7-11-①	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	上顎犬歯 上顎側切歯 上顎中切歯	左	-	-	上顎骨と同一個体 SD701
7-11-①	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	上顎第一小臼歯	右	-	-	上顎骨と同一個体 SD701
7-11-②	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	上顎第2大臼歯	左	-	-	上顎骨と別個体 SD701
-	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	側頭骨片1点	-	-	-	SD701
7-14	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	橈骨(骨体)2点	左右	-	女	SD701
-	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	頭蓋骨片12点	-	-	-	SD701
-	No.130	F-1 東北コーナー落込み	-	大腿骨片(頸部)	左	-	-	SD701
7-12	No.119	F-1 東北コーナー落込み	-	上顎側切歯	右	-	-	7-11-①と別個体
-	No.119	F-1 東北コーナー落込み	-	頭蓋骨片7点	-	-	-	SD701
7-13	No.119	F-1 東北コーナー落込み	-	軸椎片	-	-	-	SD701
-	No.119	F-1 東北コーナー落込み	-	骨片2点	-	-	-	SD701
-	No.138	-	2層	骨片1点	-	-	-	-

第7次調査

所見番号	袋番号	調査区	層序	部位	左右	年齢	性別	備考
—	No.128	F-2・3隔壁	2層	頭蓋骨片1点	—	—	—	—
7-15	No.162	F-3	表土	大腿骨	右	—	男	—
—	No.162	F-3	表土	四肢長骨片3点	—	—	—	—
—	No.162	F-3	表土	頭蓋骨片	—	—	—	—
—	No.160	F-3	表土下半	頭蓋骨片	—	—	—	—
7-16	No.160	F-3	表土下半	下顎骨(下顎底)	—	—	—	—
7-17	No.133	F-3	3層	肩甲骨片	左	—	—	—
—	No.133	F-3	3層	大腿骨片2点	—	—	—	—
7-18	No.133	F-3	3層	脛骨	左	—	—	—
7-19	No.133	F-3	3層	中足骨	左	—	—	—
—	No.133	F-3	3層	四肢長骨片3点	—	—	—	—
7-20	No.125	F-3	4層	脛骨	左	—	—	—
7-21	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	頬骨、上顎骨	右	—	—	—
7-21	No.119	F-5	黒色層下(攪乱)	上顎第1大白歯	右	—	—	—
7-22	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	側頭骨(外耳道付近)	右	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	側頭骨片	—	—	—	—
7-23	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	後頭骨(咽頭結節)	—	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	顔面骨(眼窩付近)	左	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	側頭骨～後頭骨付近	—	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	頭蓋骨片7点	—	—	—	—
7-24	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	肋骨体片7点	—	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	環椎(横突起)	—	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	脛骨(前縁)	—	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	四肢長骨片8点	—	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	膝蓋骨片	右	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	月状骨	—	—	—	—
—	No.118	F-4	黒色層下(攪乱)	骨片10点	—	—	—	—
—	No.121	F-4	4層	第1末節骨(足)	左	—	—	—
—	No.121	F-4	4層	脛骨	—	—	—	—
—	No.121	F-4	4層	大腿骨	左	—	—	—
—	No.121	F-4	4層	四肢長骨片4点	—	—	—	—
—	No.137	F-4-2	4層(黒砂層)	頭蓋骨片4点	—	—	—	—
—	No.137	F-4-2	4層(黒砂層)	四肢長骨片5点	—	—	—	—
—	No.151	F-4 人骨墓坑内(配石)	—	末節骨2点	—	—	—	701号人骨
—	No.151	F-4 人骨墓坑内(配石)	—	骨片13点	—	—	—	701号人骨
—	No.145	F-4 人骨墓坑内 (配石の北側墓坑)	—	肋骨片	—	—	—	702号人骨
—	No.145	F-4 人骨墓坑内 (配石の北側墓坑)	—	歯根	—	—	—	702号人骨
—	No.145	F-4 人骨墓坑内 (配石の北側墓坑)	—	鎖骨片	—	—	—	702号人骨



第7次調査								
所見番号	袋番号	調査区	層序	部位	左右	年齢	性別	備考
—	No.145	F-4 人骨墓坑内 (配石の北側墓坑)	—	骨片70点	—	—	—	702号人骨
—	No.145	F-4 人骨墓坑内 (配石の北側墓坑)	—	骨?	—	—	—	702号人骨
—	No.143	F-4南	—	棘突起(腰椎)	—	—	—	713号人骨
—	No.139	F-4南	—	尾椎2点	—	—	—	713号人骨
—	No.139	F-4南	—	第2中節骨(足)	左	—	—	713号人骨
—	No.139	F-4南	—	末節骨(足)	—	—	—	713号人骨
—	No.139	F-4南	—	中節骨	—	—	—	713号人骨
—	No.139	F-4南	—	第2末節骨(手)	—	—	—	713号人骨
—	No.139	F-4南	—	豆状骨2点	—	—	—	713号人骨
—	No.139	F-4南	—	肋骨片7点	—	—	—	713号人骨
—	No.136	F-5	2・3層相当(攪乱)	上顎骨前頭突起	左	—	—	—
—	No.136	F-5	2・3層相当(攪乱)	頭蓋骨片3点	—	—	—	—
—	No.136	F-5	2・3層相当(攪乱)	肋骨	—	—	—	—
—	No.136	F-5	2・3層相当(攪乱)	大腿骨体2点	—	—	—	—
—	No.136	F-5	2・3層相当(攪乱)	四肢長骨片2点	—	—	—	—
—	No.136	F-5	2・3層相当(攪乱)	椎骨(突起片)	—	—	—	—
—	No.136	F-5	2・3層相当(攪乱)	骨片2点	—	—	—	—
—	No.146	F-5	—	中節骨(足)	—	—	—	706号人骨
—	No.159	F-5・6	排土	中手骨片	—	—	—	—
—	No.159	F-5・6	排土	大腿骨体片	—	—	—	—
7-26	No.159	F-5・6	排土	膝蓋骨	左	—	—	—
—	—	F-5・6	排土	大腿骨体片	—	—	—	—
—	—	F-5・6	排土	頭蓋骨片5点	—	—	—	—
—	No.156	F-5・6	排土	末節骨(手)	—	—	—	—
—	No.156	F-5・6	排土	末節骨(足)	—	—	—	—
—	No.156	F-5・6	排土	中節骨(足)	—	—	—	—
7-25	No.127	F-5・6間土手	2層相当	下顎骨	右	5歳	—	—
7-27	No.149	F-5・6間土手	4層相当下層	距骨	右	—	女	—
—	No.149	F-5・6間土手	4層相当下層	骨片	—	—	—	—
7-28	No.122	F-6円形井戸	埋土	腓骨体(近位部)	右	—	男	—
7-29	No.135	F-6	貝製品相当	脛骨(遠位端)	左	未成人	—	—
7-31	No.135	F-6	貝製品相当	仙椎片	—	未成人	—	—
—	No.135	F-6	貝製品相当	骨片6点	—	—	—	—
—	No.157	F-6	排土	第5中足骨片	右	—	—	—
—	No.157	F-6	排土	内側楔状骨片	左	—	—	—
—	No.134	F-6	3層	舟状骨片	左	—	—	—
—	No.131	F-6	3層	大腿骨片	—	—	—	—
—	No.131	F-6	3層	脛骨片2点	—	—	—	—
—	No.131	F-6	3層	脛骨	—	—	—	—
—	No.131	F-6	3層	骨片3点	—	—	—	—

第7次調査								
所見番号	袋番号	調査区	層序	部位	左右	年齢	性別	備考
—	No.147	F-6	4層相当	頸椎	—	—	女	—
—	No.147	F-6	4層相当	椎骨	—	—	—	—
7-30	No.147	F-6	4層相当	腓骨	左	未成人?	—	—
—	No.147	F-6	4層相当	基節骨	左	未成人	—	—
—	No.147	F-6	4層相当	末節骨	—	—	—	—
—	No.147	F-6	4層相当	骨片4点	—	—	—	—
—	No.152	F-6	4層	骨片	—	—	—	—
—	No.142	F-6南壁	4層	骨片	—	—	—	—
—	No.141	F-6	—	骨片	—	—	—	図S-20と表記あり
7-32	No.150	F-6	—	肋骨	右	未成人	—	図S-21と表記あり
—	No.153	F-6篩	—	骨片6点	—	—	—	—
—	No.163	—	表採	頭蓋骨片	—	—	—	—
—	No.163	—	表採	踵骨片	—	—	—	—
—	No.163	—	表採	距骨	左	—	—	—
—	No.161	—	排土	中節骨	—	—	—	—
—	No.161	—	排土	頭蓋骨	—	—	—	—
—	No.161	—	排土	骨片3点	—	—	—	—
—	—	—	—	椎骨関節突起	—	—	—	—
—	—	—	—	骨片	—	—	—	—
第8次調査								
—	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	頭蓋骨片11点	—	—	—	—
8-1-①	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	上顎第1小白歯	左	未成人	—	—
8-1-②	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	歯冠片	—	—	—	—
8-1-③	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	歯根	—	—	—	—
8-2	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	鎖骨片	右	—	—	—
—	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	寛骨(大坐骨切痕)	—	—	—	—
8-3	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	大腿骨体	—	—	男	—
8-3	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	大腿骨体	—	—	—	—
8-4	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	脛骨体	—	—	—	—
—	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	四肢長骨片27点	—	—	—	—
—	No.060	F-5南区	2層(攪乱)	骨片15点	—	—	—	—
—	No.047	F-5南区	4層(攪乱含む)	頭蓋骨片2点	—	—	—	—
—	No.047	F-5南区	4層(攪乱含む)	骨片1点	—	—	—	—
—	—	F-5南区	4-5層	頭蓋骨片2点	—	—	—	—
—	—	F-5南区	4-5層	四肢長骨片4点	—	—	—	—
—	—	F-5南区	4-5層	骨片2点	—	—	—	—
8-5	No.061	F-6南区	2層	腓骨体	左	—	—	—
—	No.061	F-6南区	2層	四肢長骨片2点	—	—	—	—
—	No.061	F-6南区	2層	骨片3点	—	—	—	—
—	No.056	F-6	4層	頭蓋骨片2点	—	—	—	—
—	No.005	F-6南区	4層	頭蓋骨片2点	—	—	—	—
—	No.053	F-6南区	4層	頭蓋骨片4点	—	—	—	—
—	No.057	F-6・7セクトテ	4(b)層	四肢長骨片2点	—	—	—	—

第8次調査								
所見番号	袋番号	調査区	層序	部位	左右	年齢	性別	備考
—	Na057	F-6・7セクドテ	4(b)層	骨片3点	—	—	—	—
—	Na040	F-6・7セクドテ	4(b)層	頭蓋骨片4点	—	—	—	—
—	Na040	F-6・7セクドテ	4(b)層	四肢長骨片2点	—	—	—	—
—	Na040	F-6・7セクドテ	4(b)層	骨片9点	—	—	—	—
—	—	F-7南区	4層	頭蓋骨片2点	—	—	—	—
8-6	Na065	F-8南区	2層	大腿骨体	—	—	—	—
8-7	Na065	F-8南区	2層	有頭骨	右	—	—	—
—	Na065	F-8南区	2層	頭蓋骨片	—	—	—	—
—	Na065	F-8南区	2層	四肢長骨片	—	—	—	—
8-8	Na024	F-8南区	2層下半	大腿骨体	—	—	—	—
—	Na024	F-8南区	2層下半	四肢長骨片2点	—	—	—	—
—	Na024	F-8南区	2層下半	頭蓋骨片	—	—	—	—
—	Na024	F-8南区	2層下半	骨片7点	—	—	—	—
—	Na021	F-8南区	2~4層	頭蓋骨片3点	—	—	—	—
—	Na021	F-8南区	2~4層	口蓋片	—	—	—	—
—	Na021	F-8南区	2~4層	四肢長骨片	—	—	—	—
—	Na021	F-8南区	2~4層	骨片2点	—	—	—	—
8-9	BN044	F-8南区	4層	肋骨片	—	未成人	—	—
—	BN044	F-8南区	4層	骨片	—	—	—	—
—	Na051	F-8・9南区	4層	頭蓋骨片	—	—	—	—
—	Na051	F-8・9南区	4層	内側楔状骨	—	—	—	—
—	Na051	F-8・9南区	4層	骨片3点	—	—	—	—
8-10	Na026	F-9南区/西端拡張	2層	大腿骨体	右	—	男	—
—	Na026	F-9南区/西端拡張	2層	四肢長骨片2点	—	—	—	—
—	Na026	F-9南区/西端拡張	2層	骨片6点	—	—	—	—
—	Na032	F-9南区/西端拡張	2層	頭蓋骨片2点	—	—	—	—
—	Na032	F-9南区/西端拡張	2層	四肢長骨片	—	—	—	—
—	Na071	Gトレンチ	2c層	椎骨片	—	—	—	—
—	Na071	Gトレンチ	2c層	骨片3点	—	—	—	—
8-11	—	Iトレンチ	2層	脛骨体(前縁の一部)	—	—	—	—
—	Na103	—	—	末節骨(手)3点	左	—	—	—
—	Na103	—	—	末節骨(手)3点	右	—	—	—
—	Na103	—	—	中節骨(足)	—	—	—	—
—	Na103	—	—	仙骨(耳状面の一部)	—	—	—	—
—	Na103	—	—	肋骨体2点	—	—	—	—
—	Na103	—	—	骨片32点	—	—	—	—

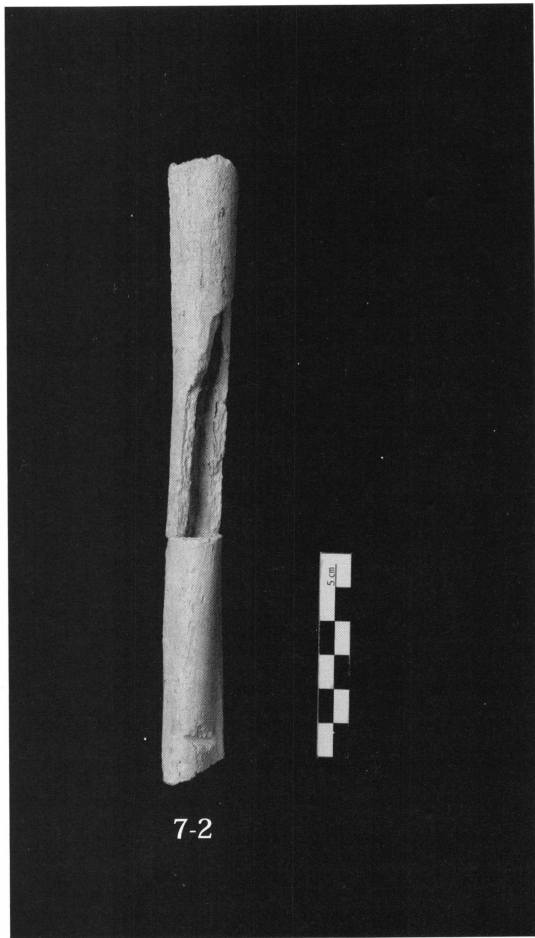


写真 1. 上腕骨 (袋No. 154)

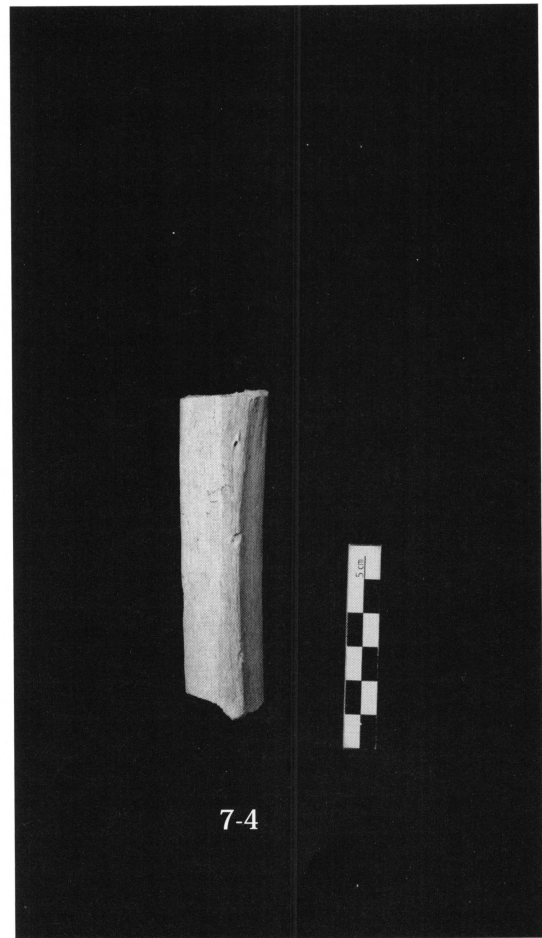


写真 2. 大腿骨 (後面: 袋 No.120)

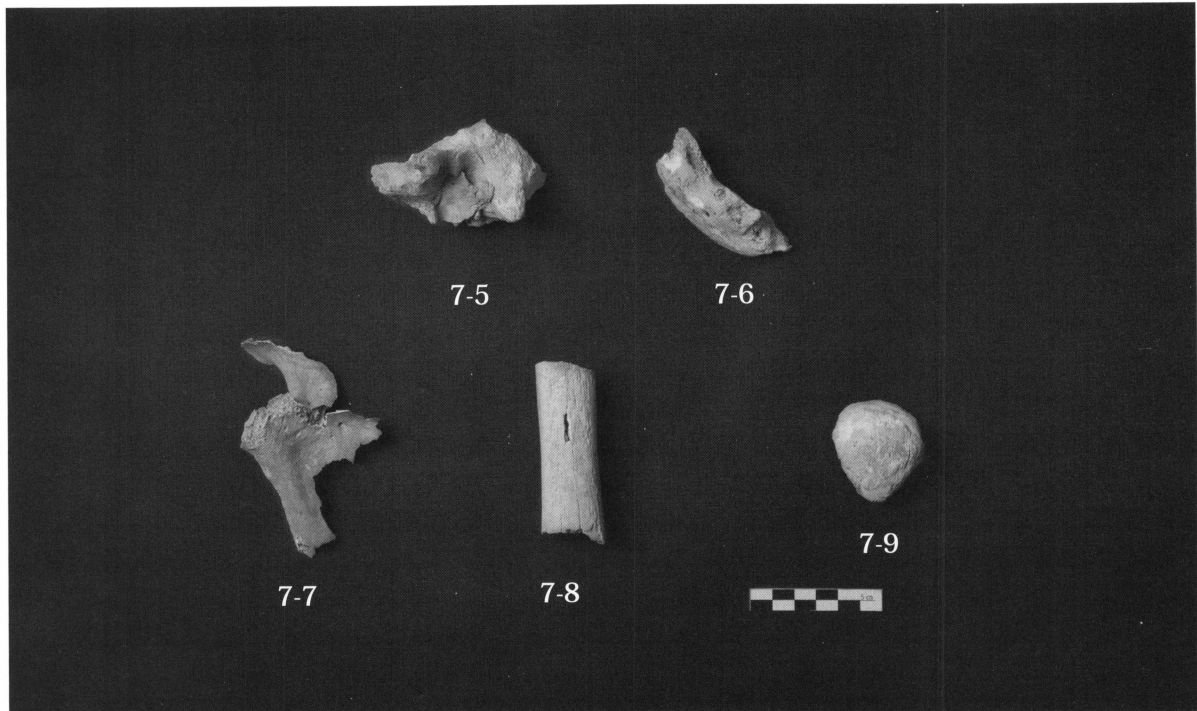


写真 3. 側頭骨・下顎骨・肩甲骨・大腿骨・膝蓋骨 (袋No. 124)

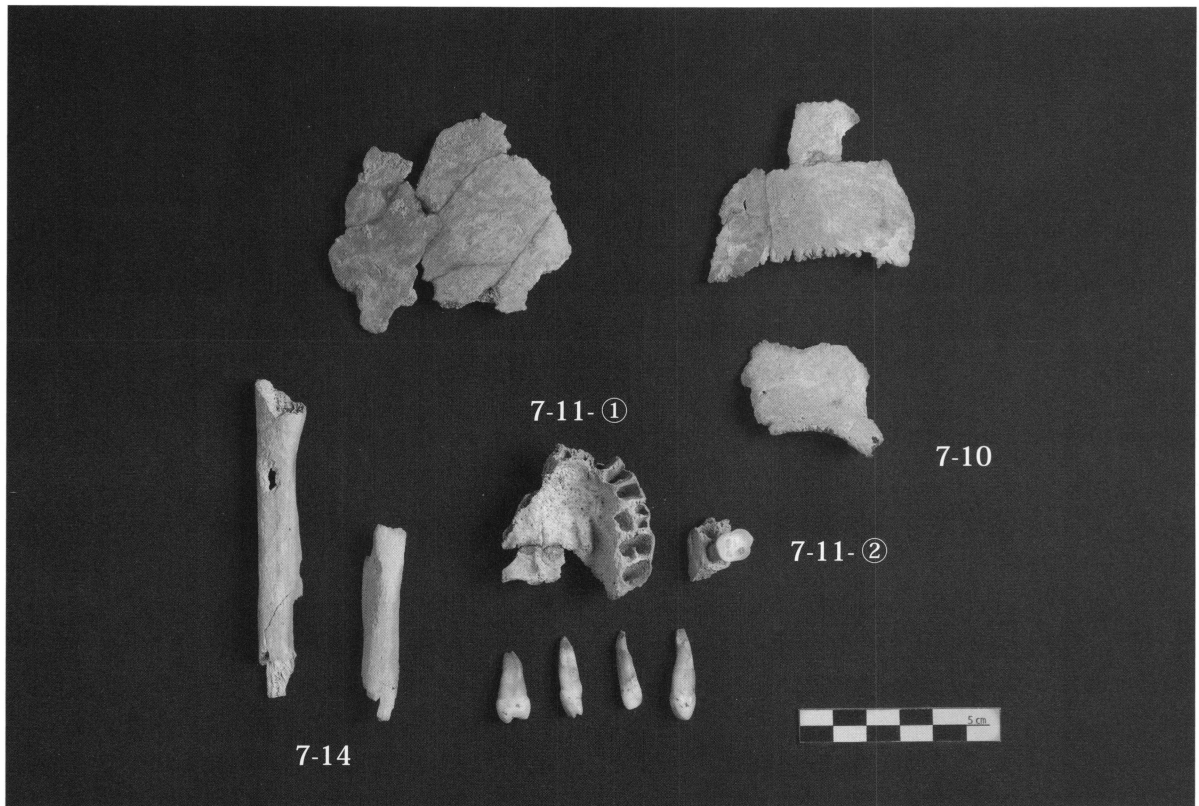


写真 4. 前頭骨・側頭骨・上顎骨・歯・橈骨 (袋No. 130)

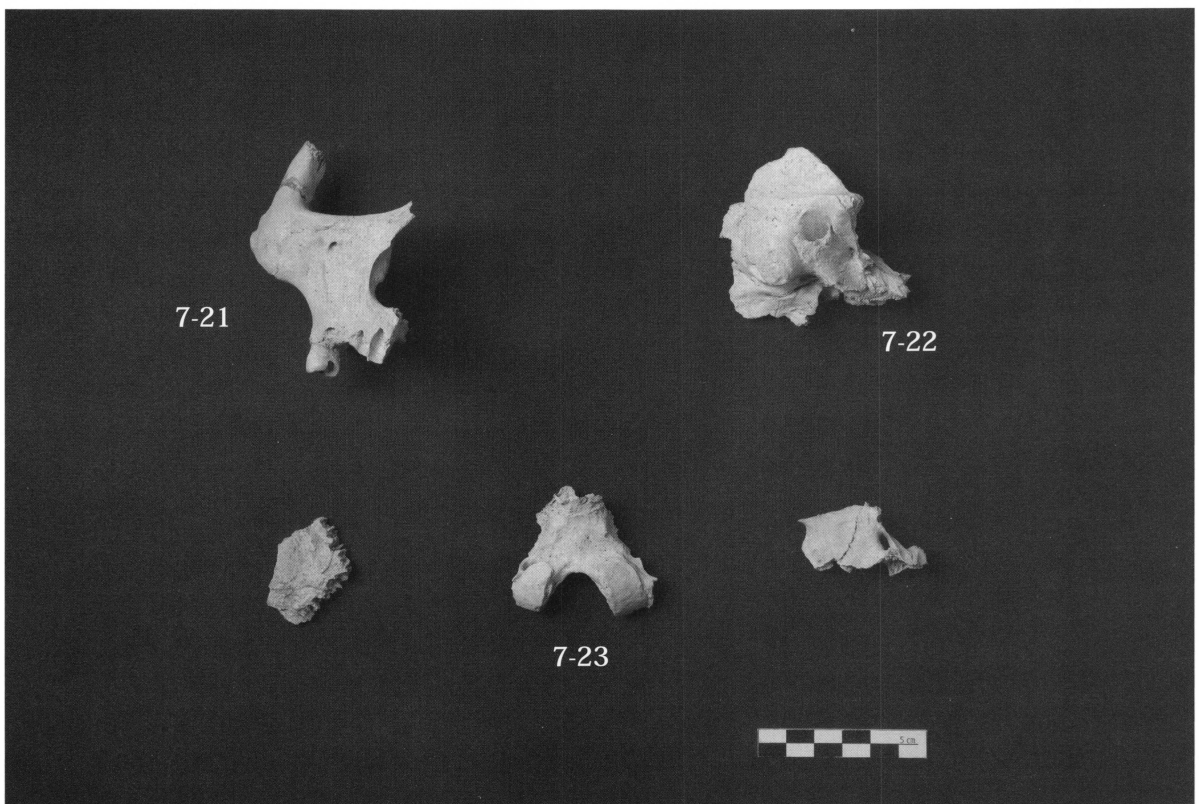


写真 5. 頬骨・上顎骨・側頭骨・後頭骨 (袋No. 118)





写真 6. 下顎骨 (袋No. 127)

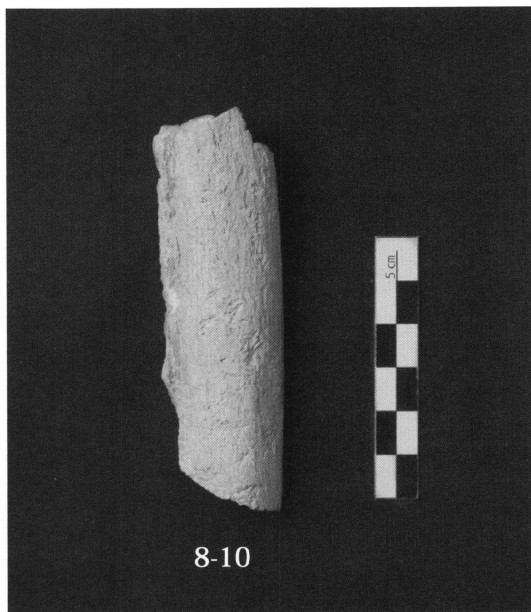


写真 7. 大腿骨 (側面：袋No. 026)

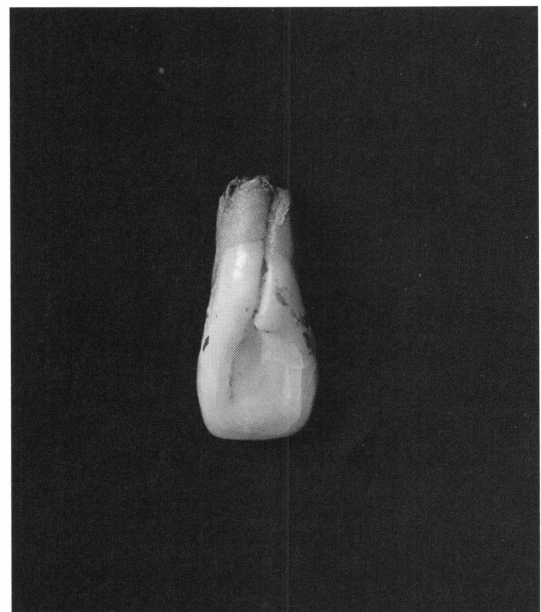


写真 8. 斜切痕 (7-12)



写真 9. 外耳道骨腫 (7-5)

---

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

## 研究紀要

第11号

発行年月日 2016年3月  
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム  
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上891-8  
TEL 083-788-1841  
FAX 083-788-1843  
印刷 アロー印刷株式会社  
〒751-0818 下関市卸新町10-3  
TEL 083-223-1211  
FAX 083-223-1309

---